

授業科目名	音楽療法演習Ⅱ	担当形態	演習		
		開講学期	秋学期		
担当教員	栗林 文雄	単位	1	年次	3

＝授業のテーマ及び到達目標＝

春の学期に引き続き、さまざまな音楽療法活動の実際を体験し、音楽を使った臨床的活動に必要な基礎的スキルを場面に即した状況で習得する。音楽療法概論1、2、音楽療法各論1、音楽療法の技能1などのクラスで習得した知識を統合しながら、具体的な臨床行動へと凝縮する実践中心の科目である。授業形式は演習を中心とする。学生はセラピストとして必要となる基本的な援助力（目配り、声、動作）をロールプレイによって育て、それぞれ1回のセラピスト体験、協力者体験、音楽援助体験などにより実際の現場に出るための準備を行う。春学期に引き続きストレッチ活動と声のトレーニングを行う。

＝履修の条件と学習の方法＝

1年～2年において音楽療法関連科目を学び、音楽療法総論ⅠとⅡ、音楽療法各論Ⅰ～Ⅲ、音楽療法の技能Ⅰ～Ⅲが終了している学生。体調管理に留意すること。

事前・事後学習として、音楽療法についての基本知識を書物により得る。

＝授業の概要＝

活動的音楽療法、受動的音楽療法、声の使用法、リラクゼーション技法、寄り添いの実習、

＝授業計画＝

- 1回 イントロダクション（コース、評価法の説明）、ストレッチ、身体運動（運動可能な服装で参加）
- 2回 ストレッチ、発声活動、歌唱活動学生によるロールプレイを行う。
毎週セラピストと音楽係の二人が活動案を作成する。反省会。
- 3回 ストレッチ、発声活動、歌唱活動学生によるロールプレイを行う。
- 4回 ストレッチ、発声活動、歌唱活動学生によるロールプレイを行う。
- 5回 ストレッチ、発声活動、歌唱活動学生によるロールプレイを行う。
- 6回 ストレッチ、発声活動、歌唱活動学生によるロールプレイを行う。
- 7回 ストレッチ、発声活動、歌唱活動学生によるロールプレイを行う。
- 8回 ストレッチ、発声活動、歌唱活動学生によるロールプレイを行う。
- 9回 ストレッチ、発声活動、歌唱活動学生によるロールプレイを行う。
- 10回 ストレッチ、発声活動、歌唱活動学生によるロールプレイを行う。
- 11回 ストレッチ、発声活動、歌唱活動学生によるロールプレイを行う。
- 12回 ストレッチ、発声活動、歌唱活動学生によるロールプレイを行う。
- 13回 ストレッチ、発声活動、歌唱活動学生によるロールプレイを行う。
- 14回 ストレッチ、発声活動、歌唱活動学生によるロールプレイを行う。

＝テキスト（必携）＝

《No.1》

<声>を育てる 歌いたい人のためのボイスワーク

著者名：栗林文雄

出版社：一麦出版社

＝参考書・参考資料（必携）＝

明治、大正、昭和の名曲を集めた楽譜を使用する。

＝成績評価の方法と評価の基準＝

- 1) 出席点 50%を出席 5 点、欠席 0 点で評価する。
 - 2) 最終クラスにおいて臨床的な演奏テストを行い 1～5 点で評価し 25%とする。
 - 3) 自身のセラピスト体験の成熟度を 5～1 で評価し 25%とする。
- 合計で 100%となる。

＝その他＝

期間中は特に健康管理に留意する。